

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka

2018.7
No.240



特集

対談

LGBT×障がい者

～それぞれの立場から人権を考える～

- 06 福障協だより 「平成29年度通常総会」報告
- 08 身障協会だより 「第63回日本身体障害者福祉大会（ぐんま大会）」報告
- 12 福岡市身体障害者福祉協会 平成29年度決算報告
- 13 7月・8月の福祉用具情報 ～福岡市介護実習普及センターより～



花田 敏秀 (はなだ としひで)

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会
理事長

知的障がいのある当事者の保護者で構成している団体。福岡市内に入所施設・通所施設、グループホームや相談支援事業所、清掃事業を展開。

石崎 杏理 (いしざき あんり)

FRENS代表 (Fukuoka Rainbow
Educational NetworkS)

大学在学中に自身が受講する人権の授業で講演をしたことをきっかけに、様々な講演活動を展開する。小学校の教員としての経験を経て、現在はLGBTの子どもや若者を中心にサポートする団体「フレンズ」で活動中。

梅津 幸子 (うめつ さちこ)

一般社団法人福岡市視覚障害者福祉協会
監事

ときめきFukuoka広報委員として編集に携わる。現在は、夫とともに城南区の自宅にて「梅津鍼灸院」を営みながら、施設などへの訪問マッサージを行っている。

対談

LGBT × 障がい者

～それぞれの立場から人権を考える～

生きづらさ、差別（偏見）について感じてきたこと

花田 進行役の花田と申します。今回は、2年前に起きたやまゆり園での悲惨な事件を振り返り、障がいのある人もない人もあらためて命の重さを考える機会として、人権問題を取り上げることになりました。お二人がこれまで生活されてきたなかで、感じてこられた生きづらさやあるいは偏見や差別などがあればお聞かせください。

梅津 私は生まれたときから目が悪かったので、自分の目が悪いのは特別ではないと思って生きてきました。大学を卒業するまでは、視覚障がい者だという意識がなかったのですが、差別されている感覚もありませんでした。

就職する時点で初めて自分が視覚障がい者で就職が困難だということを感じました。目が悪い＝障がい者だということになると、いろんなことで差別や偏見を受けました。例えば、私が小学校3年生の子どもを連れてお魚屋さんに行ったとき、店の人が子どもに魚の煮方を説明し始めたんです。「それは私に教えてもらえませんか？」って言うと、「え!!」って顔をされました。

実際は子どもを連れて歩いてるんだけど、周りからは「子供から連れられてる」ように見られることもありました。

石崎 トランスジェンダーという

のは生まれたときに割り当てられた性別と異なる、違う生き方をする人、したいと思ってる人たちのことなんです。私は「自分が女の子に当てはまらない」って感じ始めたのが小学校1年生の頃からだったと思います。その頃から生きづらさの中心にあったのは、私の「性自認」が尊重されないと

いうところでした。

「性自認」は英語で言うところの「ジェンダーアイデンティティ」ですが、社会的な性別を自分ほどのよくな性別であるという認識なのかということです。

私が差別を受けたエピソードは、今

から約8年前、大学時代に「小学校の先生になって人権教育がしたい」と思い教員採用試験を受ける直前、書類を大学の先生に見せた時に「あなたはトランスジェンダーだから教員にはなれないと思うよ。あなたの

ような人は採用されないと思うから別の仕事を探した方がいいんじゃない」という言葉が返ってきました。今よりもLGBTのことを誰も知らない時代でした。

梅津 小学生の時、私は何故か絵が得意で、県展とかでよく賞をいただいていた。6年生の時に友だちから、「今日、県庁で絵の表彰があつて、あなたの名前が書いてあつたよ」と言われました。

びっくりして先生に聞いたら、「あなたは目が悪いからどうなるか分からないので、学級委員を連れて行った」と…その時は傷つきましたね。今考えると差別されていきました。でも10人差別する人たちがいたら、10人良くしてくれる人がいるんです。私はずっとひきこもって誰とも喋らなかつたら友達ではできなかった。

私は絵を描くことができたからクラスでいろんな物を描いたりしました。振り返ると、自分の得意としてきたことが、クラスのみんなに認めてもらえたと思います。本人が得意なことを何か見つけてあげて、それをどんどん前に出してあげたら、障がいにしても色んな偏見を少し超えられるんじゃないかなと思います。
石崎 よく私たちLGBTのコミュニティで話をしているときに、「私たちは差別などされていない」



と、言う人がいたりします。しかし、ある性別の組み合わせの2人は婚姻制度を利用することができ、婚姻関係になれて様々な権利や社会的な保障を得ることができません。逆に、ある性別の組み合わせの2人には、それを得ることができないという事実上の差別が日本に割り当てられた性別と自認する性別が一緒であるならば、その人が自認する性別は尊重されて、

異なっていれば、それは尊重されないということも差別であると思います。これは性的指向や性自認を理由とする差別であると言えませんが、それでも「私たちは差別などされていない」という言葉の根底にあるのは、差別をされる人が劣っていて、かわいそうで、何か問題があるからで、私たちはそれとは違うという価値観をもつことで、差別されていないという側に立っているという印象があります。



障害者差別解消法や福岡市パートナーシップ宣誓制度について思うこと

花田 差別を少しでも解消しようという法律や制度ができてつつありますが、お二人はどう思われますか。

梅津 法令化することはとてもいいことですね。視覚障がい者を例にするとハード面では、どこかの施設に行った際には必ずサポートしてもらえると、飲食店に行ったときにメニュー表に点字がある、メニューを読んでいただけるなどといったサービスを受けられるようになるのかなと思っています。

福岡市でもユニバーサル都市を目指し、色々な取り組みを行っていると思いますが、さらに周囲の環境が整備され、障がい者が「拒否」される環境が減ってくるのかなと感じています。しかし、ソフト面の問題も重要じゃないかと思えます。小さい頃から障がい者だろうが、人として普通なんだという考え方を普及させることが大切だと思います。そのために一番大事なのは自分たちがスキルアップして、自らが社会に出るための技術や身につけ、社会の中でやっていくだけの実力をつけることも重要ではないでしょうか。

石崎 福岡市のパートナーシップ宣誓制度は限られた人しか保障しないのですが、例えば、市立病院において、本人と連名で手術の同意ができるようになりました。また、市営住宅への申し込みが一緒にできるようになりました。

自分が育ったこの福岡市で「ずっといないものにされていた私達がいるんだ」ということ、少しずつでもいいから「尊重していこう」、「共に生きていこう」という方向に舵を切られたんだということが明らかにになったことで、とても嬉しく感じています。

この制度は象徴的に報道されていますが、これをきっかけに、福岡市の中でもより安心して暮らしていけるようまだまだ様々な取り組みが必要ですし、今後に期待しているところです。

今回対談していただいたみなさんにはLGBTの象徴とされる虹色の旗、「レインボーフラッグ」を背に表紙撮影にもご協力いただきました。
(撮影場所 ふうくプラザ)

これから差別のない社会（共生社会）の実現のためには何をすべきか

梅津 以前、アメリカで障がい年金をもらって暮らすよりも、働いて税金を払いましょうという運動を紹介した番組を見ました。これはひとりでも多くの障がい者を雇用することで経済的な格差をなくすことが狙いのです。難病や重度の障がい者の親亡き後、老老介護、障がい者同士の介護、それぞれの将来を安心できるような環境を国で取り組むことも差別解消のひとつになると思います。そして、様々な場所で障がい者が雇用されていくことで経済格差がなくなり、障がいのある人もない人も安心して暮らせる社会ができるんじゃないかと思います。

石崎 私がいつも思うのは、どのような人権問題においてもそうですが、偏見を持たずに育ち生きられるってことはほぼないんじゃないかと思っています。LGBTの文脈で言えば、トランスジェンダーの私であったとしても、トランスジェンダーに対する偏見を今でも持ち続けているからです。しかし、立ち止まることや知識を得ること、平等であることが誰にとっても一番いいことなんだと信

じることで、変えていくことができるんじゃないかと思っています。差別のない社会の実現のためには、おそらく誰もが自分の偏見と向き合うこと、偏見がない人はいないから偏見と向き合ってそれを介して、変えていくことをやり続けることが必要なのかなって感じます。**花田** 差別や偏見について、石崎さんのおっしゃる通り誰にでもあるのだと思います。最後になりませんが、やまゆり園事件では、犯人が「この人たちは社会の何の役にも立てない」という話をしました。もちろん仕事によって社会に貢献するということも大事なことだと思っています。しかしながら知的分野で言えば、雇用の場で働ける人の方がむしろ少ないのが現状です。ではやっぱり犯人の言うとおりなのでしょう。今、元気で働いている人もやがて歳をとって働けなくなり経済的には役に立たなくなつて張る人になるかもしれません。この人たちは役に立たない人なのでしょうか。私たちの社会は「社会的弱者」と共生できるだけの経済的そして精

神的余裕をなくしつつあるのかもしれない。行き過ぎた、あるいは誤った競争原理は一つの価値観だけで人と人との間に垣根を作りある属性の人を排除する、そしてその後また別の属性の人をくくつてその人たちを排除するという方向に向かいます。これを差別と言おうと思います。逆にいろんな価値観を認め多様性を認め合う社会、いろんな属性の人を包み込んでいく社会がだれにとっても居心地の良い社会ではないでしょうか。私はそう思います。

【LGBTとは?】

Lesbian(レズビアン=女性同性愛者)、Gay(ゲイ=男性同性愛者)、Bisexual(バイセクシャル=両性愛者)、Transgender(トランスジェンダー=身体上の性別に違和感をもった人、生まれてきたときの性別とは違う性別で生きている人)の頭文字を取った性的少数派の総称のひとつ。

【福岡市パートナーシップ宣誓制度とは?】

福岡市では、典型的とされていない性自認や性的指向を持つ方のパートナー関係を尊重するために平成30年4月からパートナーシップ宣誓制度を始めました。この制度は、福岡市が二人のパートナーシップを尊重するものですが、法的な効力(婚姻や相続、税金の控除など)が生じるものではありません。しかし、二人が人生のパートナーとして安心して生活ができるよう行政がその関係を尊重するとともにパートナーシップの宣誓による宣誓書受領証の交付を通じ、性的マイノリティの方々が抱える生きづらさの解消につなげるための制度です。

